

第2章 赤磐市の現状

1 少子高齢化の進展

本市における年齢3区分別人口の推移を見ると、65歳未満の人口が減少を続けているのに対し、65歳以上の老年人口は増加を続けていることが分かります。

また、本市の合計特殊出生率※（ベイズ推定値）は、増加傾向にあり、平成20年～平成24年までは国及び岡山県を下回る数値で推移していたものの、平成25年～平成29年では、国及び岡山県を上回りました。しかしながら、人口維持に必要とされる人口置換水準※（2.07）を大きく下回る状態が続いています。

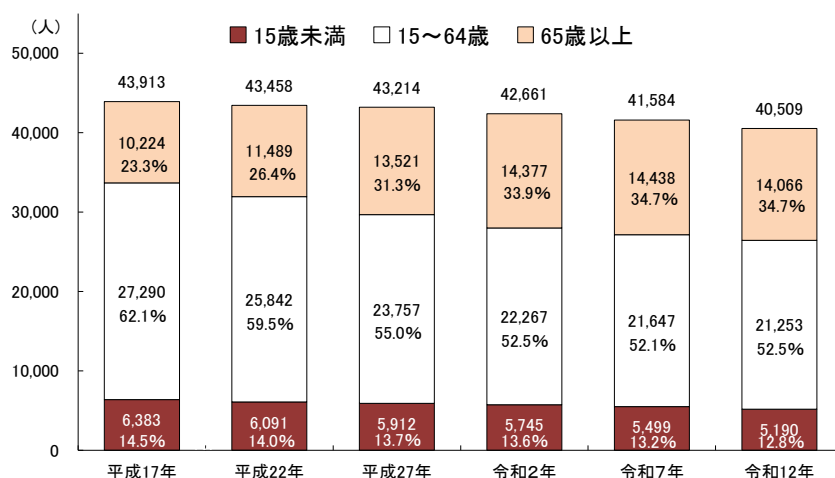
人口ピラミッドを見ても分かるように、現在最も人口の多い70～74歳が今後、順次後期高齢者となるため、本市において、後期高齢者の割合が急速に進行することが予想されます。

少子高齢化の進展は、生産年齢人口の減少による経済成長の衰退、要介護高齢者の増加と年金、医療、福祉などの社会保障分野における現役世代の負担増大など、社会経済全体に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

少子化は、子育てに対する漠然とした不安や仕事と育児の両立の難しさ、子育てや教育に係る経済的負担など、多くの要因が複雑に作用するなかで個人の人生設計が制約を受け、結果として少子化が進行しているという現実があります。その中で、家庭生活での男女間の役割分担の偏りを原因とした、子育てに対する孤独感も無視することはできません。

女性の活躍推進や男女のワーク・ライフ・バランス※の促進など、既存の子育て支援施策のみならず、結婚や子育てなどの人生の節目・転換期に対応した長期的な視点に立った生活設計や、個人の望む人生設計が実現できるような施策の展開が求められています。

年齢3区分別人口の推移



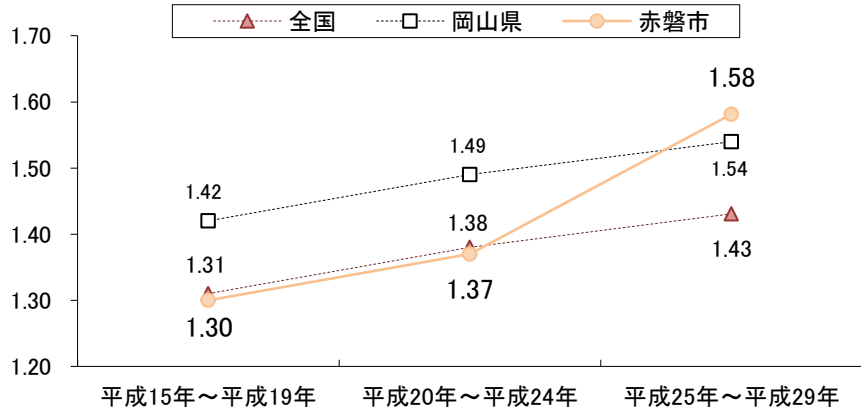
資料：国勢調査

各年10月1日現在

◆年齢3区分人口には年齢不詳を含んでいないため、各区分人口の和と総人口は一致しないことがある。

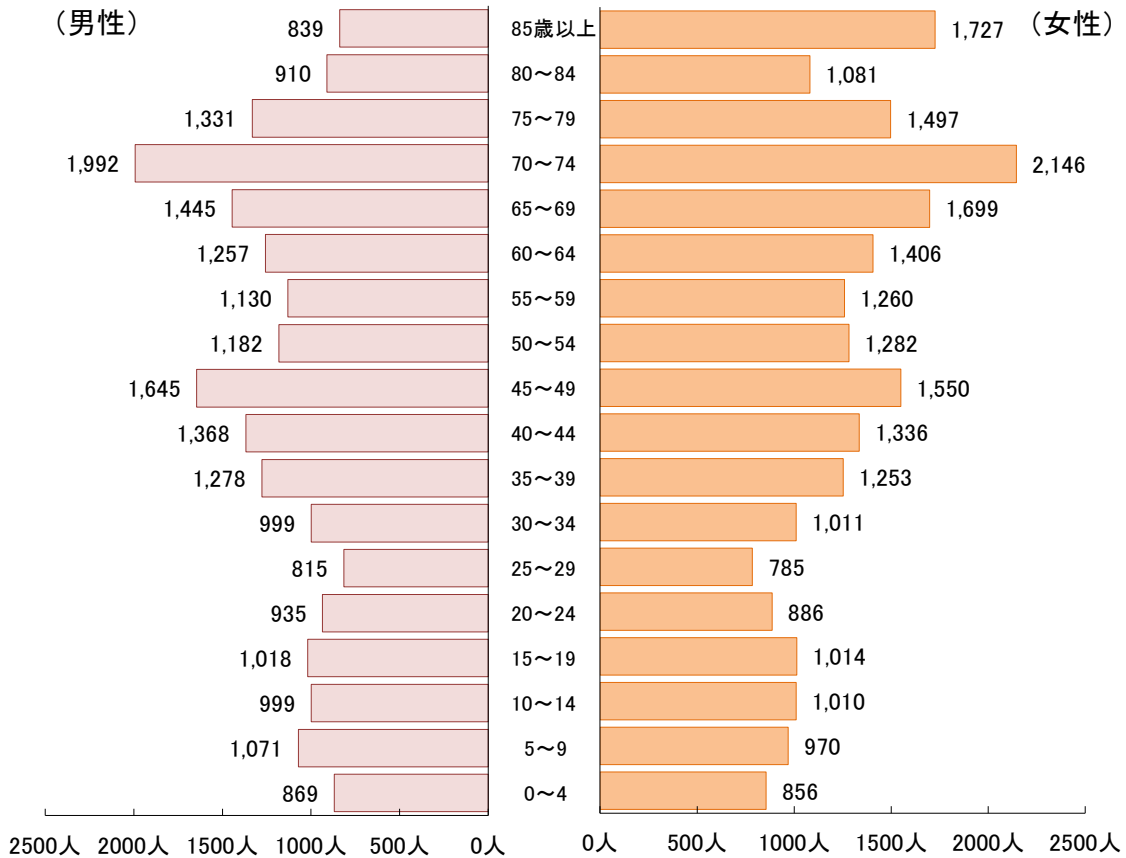
◆令和7年以降は、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口による

合計特殊出生率※（バイズ推定値）の推移



資料：人口動態保健所・市区町村別統計人口動態特殊報告

赤磐市の人口ピラミッド



資料：住民基本台帳

令和3年3月31日現在

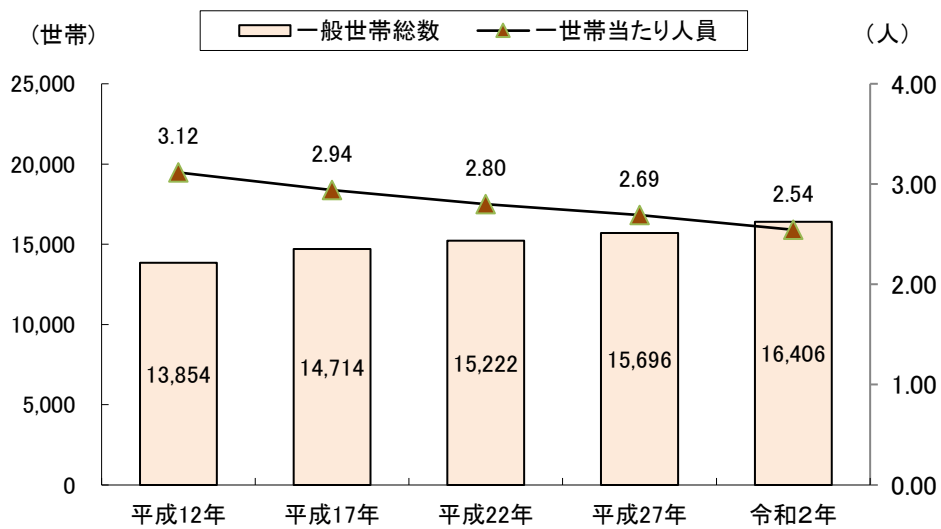
2 家族形態の多様化

少子高齢化や産業構造の変化、人々の価値観の多様化などがあいまって、家族形態が多様化しています。世帯数の推移をみると、総世帯数は一貫して増加傾向にあるものの、一世帯当たり人員は減少を続けていることが分かります。本市においても、多世代家族が減少を続ける一方、いわゆる核家族化が進行していることが分かります。

なお、高齢者の一人暮らしや夫婦だけの世帯が増えていること、若い世代にも同じような傾向が見られることから、今後もこの傾向は続くものと考えられます。

世帯人数の減少は、家庭内の相互扶助機能の低下を招くこととなります。従来の固定的な性別役割分担意識を持ったままでは、家庭の安定を保つことは非常に困難になります。

世帯数の推移



資料：国勢調査

各年 10月1日現在

3 経済状況及び就業構造の変化

わが国では、非正規雇用が増加する一方で、長時間労働が問題となっています。非正規雇用の増加は、経済的理由で結婚できない若者を生み出し、長時間労働や仕事を中心としたライフスタイルは、男性の家庭や地域への参加・参画を阻む要因の一つにもなっています。

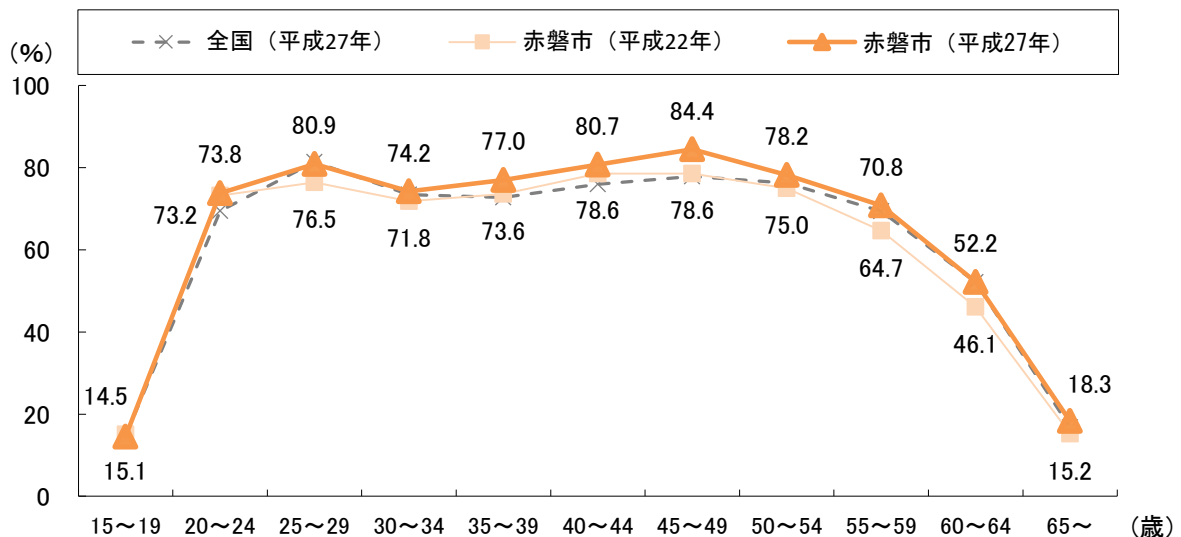
共働き世帯数が増加傾向にあるなか、女性は男性に比べて非正規雇用の割合が高く、また、子育て期に就業を中断する女性が少なくなかったこれまでの経緯から、女性の年齢階層別労働力率はいわゆる「M字カーブ」と呼ばれてきました。

全国の統計データを見ると、このM字カーブの傾向が未だ見られますが、本市においてはこれが解消されつつあることが分かります。

しかしながら、女性が子育て期にキャリアを中断せざるを得ない状況は依然として存在していることも事実です。それは、男女の賃金格差につながりかねません。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、女性非正規雇用者数が大幅に減少したとの報告もあり、本市でも、失業した女性が多くいることが推測されます。

雇用等における男女の均等な機会と待遇の確保に加え、固定的な性別役割分担意識の解消、長時間労働の削減によるワーク・ライフ・バランス*の推進など、関係する様々な取り組みが必要です。

女性の年齢階層別労働力率



資料：国勢調査

平成 27 年 10 月 1 日現在